

「全少」を日本一研究する指導者による提案

# ZENSHOに 挑戦しよう!



第95回

養正館館長 渡辺貴斗



## ウチの子、もしかして発達障害?(その11) もっと僕を見て!(応用行動分析②)

### ★問題行動には理由がある

「空手に行きたくないと言って泣き叫ぶ」、「休憩時間は終わり、と言ってもいつまでも遊んでいる」、「先生が説明しているときに隣の子に話しかける」など、問題行動をとる子がいますが、必ず原因や理由があり、それは以下の4つに大別されます。ひとつずつ、道場での実例を挙げて、対処法を考えていきましょう。今回は1の「注目されたい」の対処法を考えていきます。

#### 1. 注目されたい

「もっと僕を見て」、「かまってほしい」

#### 2. 感覚刺激

「楽しい」、「気持ちがいい」、「落ち着く」

#### 3. 要求

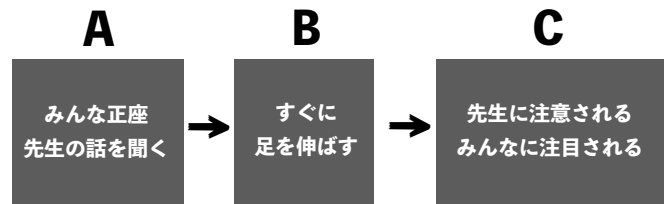
「～したい」、「～が欲しい」

#### 4. 回避・逃避

「～されたくない」、「～したくない」

### ★かまってほしい

みんなで正座して、手を止めて先生のお話を聞きます。しかしながら、ケンタ君だけがすぐに足を伸ばしてしまいます。指導者が注意しましたが、従いませんでした。なぜ注意しても言うことをきかないのでしょうか。これをABC分析で考えてみましょう。



指導者はさらに厳しく注意しましたが、こちらを見てニヤニヤし、さらに寝そべて見せます。3歳のチビのくせに挑戦的、反抗的な態度です。他の子たちの前で指導者は先生の威厳もなく、プライドはズタズタです。このような場合、皆さんはどのような対応をとりますか?

- ① 本気で叱り、大人の怖さを思い知らせてやる
- ② 「あとでお母さんに連絡するぞ」と脅す
- ③ 「これじゃあ赤ちゃんみたいだよ」と他の子たちの前でからかって自尊心をくすぐってみる
- ④ 「正座してくれたら先生嬉しいな」と叱らないように気を付ける

この中でしたら、③か④が良さそうですね。しかしながら、過去に私は、①～④のすべての対応をとったのですが、すべてダメでした。今の私だったら、⑤無視する、という対応をとります。この子は潜在的な部分で、先生に注意されることで注目を浴びたいと思っているからです。

これが昭和の時代だったら、竹刀で一発叩いて一

件落着ですが、今の時代そのような方法は許されません。

### ★もっと僕を見て！

稽古中に鼻歌を歌う子など、注意されて「ハッ」として直す場合は良いのですが、こちらを見てニヤニヤしながら無視して歌い続ける子がいます。彼らは、愛情や承認欲求が満たされておらず、注目されたいのです。

学級崩壊しているクラスで、「殴ってみろよ、殴ったら教育委員会に報告するからな」などと挑発して教師を脅す子がいます。これら高学年の子の目的と、3歳の子の目的は同じではありません。小さい子が指示に従わずニヤニヤしているのは、挑戦的に煽ってマウントをとろうとしているのではなく、注目されたいという目的が達成されて嬉しくてニヤニヤしているのです。

そのような場合は、その子の問題行動は無視して、しっかり正座している他の子に体を向けて、何もなかったかのように話を続けます。先程の指示に従わなかった子は、さらに派手に寝そべったりして見せますが、何をやっても無視し続けます。何をやっても注目してもらえないのだ、ということをつかませます。

しかしながら、その子が正座できた時は見逃さず、すぐにその場で褒めます。

その子は、褒められることでも注目されることを学び、正座する方が得策だと考え、次からきちんと

正座して褒められるという選択肢を選ぶようになり、望ましい行動が増えていくのです。褒められることでも注目されることを知り、きちんと正座できるようになっていくのです。

### ★飽と無視

“飽とムチ”という言葉がありますが、“飽と無視”が望ましいということです。望ましい行動が現れるたびに褒め、望ましくない行動が現れたときには無視します。ムチとは、望ましくない行動が現れたときに罰を与えるということですね。罰を与えるというより、無視の方が良いということです。

子供たちが問題行動をとる理由はいくつかありますが、その中の大きな要素として、注目を集めたい、かまって欲しい、といった欲求があります。望ましくない行動を叱ったり、小さい子でしたら抱っこしながらあやしたりすると、先生がかまってくれると勘違いしてしまいます。そして、さらに問題行動を繰り返すという負の連鎖に陥ってしまうのです。

#### PROFILE

■渡辺貴斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。7歳から父である館長から空手の手ほどきを受ける。児童心理学や成功哲学を研究して子どもたちの「心をつくる」指導法に切り替え、2013年5名、2014年・2015年7名、2016年5名、2017年9名、2018年・2019年5名を全少入賞させ、一道場での全国最多入賞を連続で記録する。道場経営でも、一道場で350名を超える大躍進を続ける。



空手道場 養正館 / 静岡県沼津市本田町 11-12



## 子供への声掛けと道場経営に役立つ！ 人生を変えるおススメ本！（第2回）

### ■カリスマ体育教師の常勝教育（原田隆史著）

指導者としての私は、この本からすべてが始まりました。何回も購入して、いろんな先生にプレゼントしてきました。原田先生はたくさん本を出されていますが、みなさんはまず、この本から読んでみてください。早く子供たちに会って実践したくなるスゴイ本です。

先生は「究極の荒れた学校」大阪の松虫中に赴任後、7年の間に陸上競技の個人種目で13回の日本一を達成します。まず、子供たちの「心」を作ることから始め、靴をそろえる、挨拶、姿勢、お手伝い、返事などの「態度教育」と、紙に実際に書き込む「目標設定用紙」を使うことで目標を鮮明にし、継続によって心を強くしていきました。

指導者駆け出しの当時の私は、「強い道場は特殊な練習をやっているに違いない」と、心技体の“技”もしくは“体”が最重要だと考えていました。しかし、強豪道場の練習方法を取り入れても試

合成績が上がらませんでした。この本に出会い「まさかの、“心”だったのか」と崩れ落ちたのを覚えています。

すぐに、この本に書いてあることを実践しました。靴並べ、挨拶、返事、姿勢、お手伝い、そして、子供たちに空手ノートを書かせて赤ペンで指導しました。

この本に出てくる「目標設定用紙」は、小学生低学年には難しすぎるので、真髓のみ残し、幼少の子でもできるように簡略化しました。その年にすぐに全少に出場する子が現れ、3年後には入賞する子が、さらにその2年後には優勝する子も出て、気づいたときには本のタイトルとおり「常勝」となっていました。心を鍛えて、他人に頼らない「自立型人間」を育てていく原田メソッドは、会社経営にも応用され、原田先生は「生活指導の神様」と呼ばれています。